

9月の植物

ムカゴホトトギス (ユリ科)

学名 : *Tricyrtis macropoda* Miq. var. *bulbifera*

ムカゴホトトギスは京都大学・瀬戸口浩彰教授、中舛理玖院生と私でヤマホトトギスの変種として記載した。佐賀では個体数は多く脊振山系が分布の壁になっている。佐賀県側の登山コースでは普通に見ることができる。脊振山系の県境の尾根は個体が多いが福岡県側に下ると個体は少ない。草丈も 30-120 cm、植物体は斜上し花序も多く 10-100 近くつき、葉腋にむかごがつく特徴がある。花弁はヤマホトトギスと同じく反転する。黒髪山、多良岳山系、雲仙山系に分布する。大分、宮崎県にも稀に分布する。雲仙ではミヤマキリシマの中に自生する個体は直立する、高い処に自生する個体は微毛を密生する。

脊振山系は 9 万年前の阿蘇の大火砕流で焼きつくされた。その後、福岡県三郡山北斜面で生き延びた個体が脊振山系に進出し進化したのがムカゴホトトギスであろう。

(写真・文 井上康彦)



上 : 花序

左下 : むかごの状態

右下 : 落下し発芽したむかご苗